

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当(期末配当金)の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
インターネットホームページ	<a href="https://www.tr.mufg.jp/">https://www.tr.mufg.jp/</a>
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="https://www.nozawa-kobe.co.jp">https://www.nozawa-kobe.co.jp</a> 不測の事態により電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞・神戸新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場

## 株式に関するお手続きについて

お手続きの内容	お手続き・お問い合わせ先
●お取引の証券会社等の口座で管理されている 当社株式に関する配当金振込指定、単元未満株式 買取請求、住所変更等のお手続き	お取引口座を開設されている証券会社
●未受領の配当金に関するお手続き ●特別口座で管理されている当社株式に関する 配当金振込指定、単元未満株式買取請求、住所 変更等のお手続き	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)

### 特別口座 について

特別口座では、株式のご売却はできません。  
証券会社に口座を開設いただき、お持ちの株式を当該口座に振り替えていただきますと、  
株式のご売却が可能となるばかりでなく、お持ちの株式の管理や株式に関するお手続きも  
当該証券会社で一括して行えるようになり便利です。

この中間報告書についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

お問い合わせ <https://www.nozawa-kobe.co.jp/ir/mail.php>



この報告書は、環境に配慮  
した植物油インキを使って  
印刷しています。



株主のみなさまへ

## 第166期 中間報告書

2025年4月1日から2025年9月30日まで



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第166期中間期(2025年4月1日から2025年9月30日まで)の「中間報告書」をお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

2025年12月



代表取締役社長 野澤 俊也

### △◆△△△ 当中間期の取り組みと業績 △△◆△△

#### 当中間連結会計期間の連結売上高は増収、営業利益と経常利益は増益、最終利益は特別損失により減益

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、インフレを伴って緩やかな回復基調にあるものの、一方で米国の政策リスクに対する警戒感を強めて推移し、企業の設備投資は慎重な姿勢が見られました。

建築材料業界におきましては、建設業界において深刻化している技能工不足に伴う供給力低下による建築工事停滞の影響を受け、厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、中期経営計画である「収益拡大戦略」、「飛躍成長戦略」、「体質強化戦略」及びESG経営で構成される「全社三大戦略プラスONE」の戦略・施策を実行いたしました。

収益拡大戦略では、主力の一般建築向け押出成形セメント板「アスロック」において、意匠・価格の両面でお客様のニーズ

に合致した商品の販売に注力しました。お客様の要望の多かった素地仕上品の新仕様「澄肌(すみはだ)」と「潤まだら(うるみまだら)」を前年度の後半に投入し、その投入効果があったこと等から、当上期のアスロック素地仕上品の出荷は前年同期を上回りました。また、2024年6月より展開しております「アスロックデザインパネルお試しキャンペーン」が本年7月に終了、当キャンペーンにより当社が競合優位性を持つデザインパネルの商談量が増加し、当社の独自商品のデザイン性を改めてご評価いただく結果となりました。

飛躍成長戦略では、他社・他部材との差別化につながる商品の上市を推進しております。当上期は、セメントの素材感をそのままに活かした内装用スレート・ボード「ナチュラーレ」シリーズに、廃棄されていた牡蠣の貝殻をボードに織り混ぜた「シェルイン オイスター」を新たに追加し、

5月に発売しました。ボード意匠に牡蠣の貝殻を用いることで従来のナチュラーレにはない新たな表情を生み出し、また、海洋資源の循環を促し廃棄物削減に貢献します。この他、お客様のニーズを踏まえ、独自性・優位性に主眼を置いた押出成形セメント板の商品開発を継続しました。

体質強化戦略では、原価低減、品質安定に関する取り組みを実行しております。当上期は、NNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動により生産性向上、原材料・エネルギー使用量の削減及び外注費削減による製造原価低減、運送効率の向上による物流費低減などコストダウンを強力に推進し、厳しい事業環境下においても利益を確保するための施策を遂行しました。また、製品検査自働化の対象工程の拡充に取り組み、お客様からの信頼向上に努めました。

プラスONEでは、ESG経営に取り組んでおります。持続的な組織の成長に資する人材確保を目的として、2025年度も3年連続となる賃金ベースアップの実施、2026年度新卒採用者の初任給引上げ、有給休暇取得促進など、従業員エンゲージメント向上のための環境整備を行いました。また、前期に続き当期も取締役への譲渡制限付株式報酬の割り当てを実施し、企業価値向上に取り組みました。

当上期の業績につきましては、建築着工床面積は依然として前年割れが続いており、この影響を受け、主力の「アスロック」売上高は前期比減収となりました。品種別売上高については、アスロックは52億43百万円(前年同期比1.9%減少)、住宅用高遮音床材は9億81百万円(前年同期比6.5%減少)、住宅用軽量外壁材は28億67百万円(前年同期比22.0%増加)

となり、押出成形セメント製品合計では90億92百万円(前年同期比4.0%増加)に、耐火被覆等は5億74百万円(前年同期比1.4%増加)、スレート関連は4億45百万円(前年同期比1.4%増加)となったこと等から、当中間連結会計期間の売上高は115億72百万円(前年同期比3.6%増加)となりました。

利益面については、全社的なコスト削減に努め売上原価及び販管費が低減したこと等から、営業利益は11億16百万円(前年同期比19.1%増加)、経常利益は12億13百万円(前年同期比18.1%増加)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益については、特別損失に訴訟損失7億76百万円を計上したこと等から4億54百万円(前年同期比21.3%減少)となりました。

### △◆△△△ 通期の見通し △△◆△△

下期の売上高については、主力製品のアスロック販売は、上期の横ばい程度で推移すると見込まれます。

利益面については、下期も引き続き厳しい事業環境が続くことが想定されますが、概ね現状の予想どおり推移すると見込まれることから、通期の営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、8月7日に公表した連結業績予想を据え置き、売上高225億円、営業利益20億70百万円、経常利益21億90百万円、親会社株主に帰属する当期純利益10億70百万円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 「やすらぎと安心の創造」を実現すること

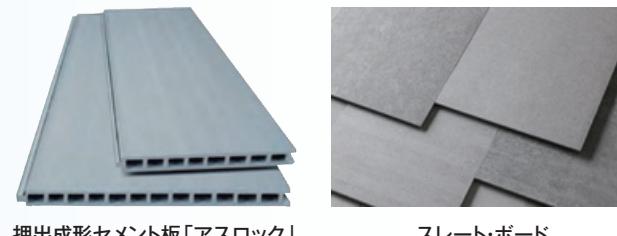
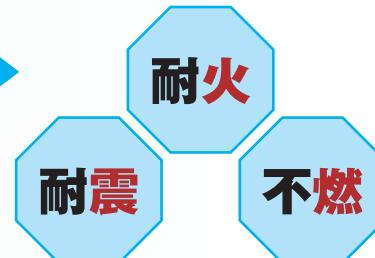
このメッセージには、「大自然の猛威に対し人間は無力に近いが、当社は知恵と努力で人々の明るい笑顔・楽しい思い出を守る。」という思いが込められています。

### ▶ 災害時に人々の生活と安全を守ります。

不燃、耐火、耐震、高耐久、高強度の建築土木資材を提供することによって、災害時に人々の生活と安全を守ります。

- ▶ 地震に強い軽くて燃えない壁としてスレート・ボード、押出成形セメント板「アスロック」の開発
- ▶ 台風災害を防ぐ「アスロック」※5000Pa(パスカル)の水密性能

※5000Paは、最大風速84m/sに相当します。  
これは、日本で記録された最大風速である  
昭和40年の台風23号(69.8m/s)を上回る  
水密性能です。【アスロックNeo-HS工法採用時】



### ▶ 日常生活において快適な住環境を提供します。

デザイン性が高く、多くの仕上げバリエーションを持つ商品を揃えることで、日常生活において快適な住環境を提供します。

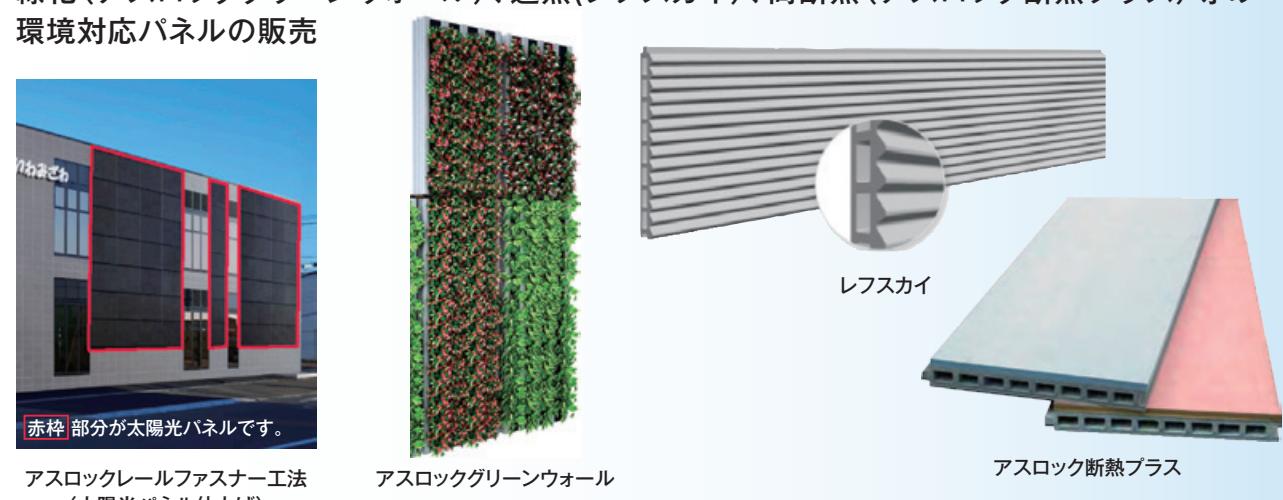
- ▶ 災害に強いだけでなく、平時や日常においても高いデザイン性と機能性を兼ね備え、人々にやすらぎをもたらす商品を提供します。



### ▶ 環境保全により、自然災害の要因となる環境負荷の低減を図ります。

太陽光発電、緑化、遮熱、高断熱等の環境型商品を開発することにより環境負荷の低減を図ります。

- ▶ 地球環境にやさしい太陽光発電(アスロックレールファスナー工法(太陽光パネル仕上げ))、緑化(アスロックグリーンウォール)、遮熱(レフスカイ)、高断熱(アスロック断熱プラス)等の環境対応パネルの販売



### 地域貢献—神戸旧居留地クリーン作戦—

当社は地域社会との共生を大切にし、地域貢献活動に積極的に取り組んでおります。

その一環として、2025年10月16日に旧居留地連絡協議会が主催する「神戸旧居留地クリーン作戦」に参加いたしました。

当日は小雨が降る中、多くの企業の皆様とともに、神戸旧居留地の美化活動に取り組みました。

また、当社は神戸旧居留地に本社を構え、「旧神戸居留地十五番館」を所有しております。この地域は、歴史的にも文化的にも重要な場所であり、訪れる方々に「やすらぎと安心」を感じていただけるよう、地域活動を通じてその魅力を高めていきたいと考えております。



2025年10月から11月にかけての5日間、建築業界関係の皆様に、当社の商品について、より詳しく知っていただきため、実物大のサンプルをご覧いただける見学ツアーを埼玉県(技術研究所)と兵庫県(高砂工場)の2会場で開催しました。会場では、図面やカタログでは伝わりにくい、素材感、色合い、塗装の仕上がり、光の当たり方による表面意匠の陰影が変化する商品を展示。アスロックでは「デザインパネル」、「工場複色塗装品」3種の「素地仕上品」を、スレート・ボードでは色合いや意匠の異なる8種の「ナチュラーレ」をご覧いただきました。様々な実物大の商品を並べて比較できたことで、新たな商品の魅力や良さを実感し、新しい発見が生まれたとのお声をいただき、ノザワ商品の採用を検討するきっかけになったとの評価をいただきました。



高砂工場の実物大サンプル見学ツアーの様子

## ESG経営への取り組み



### カーボンニュートラルの実現

#### 温室効果ガス排出削減目標に対する進捗状況

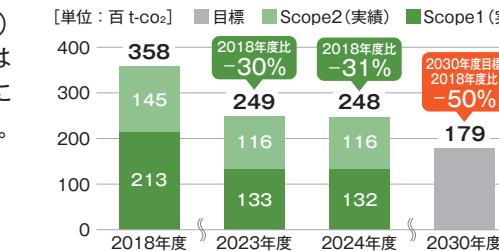
当社は、2030年までに温室効果ガス排出量(\*Scope1・2の合計)を2018年度比50%削減する目標を掲げています。2024年度は\*Scope1・2排出量を2018年度比31%削減、2030年度目標に対して目標達成率62%となり、順調に排出量を削減しています。今後も目標達成に向け日々削減活動に取り組んでまいります。

\* Scope1:自社による温室効果ガスの直接排出

Scope2:他社から供給された電気・熱の使用に伴う間接排出



SCIENCE  
BASED  
TARGETS  
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



### 製品サービスの向上

#### 押出成形セメント板の表面検査自動化による製品クレームゼロ

当社では、製品品質のさらなる向上を目指し、押出成形セメント板の表面検査工程において自動化システムを導入しました。信頼性の高い製品を提供し続けることで、お客様の満足度向上と企業価値の向上を目指してまいります。



### 公正・透明な経営

#### 取締役への譲渡制限付株式報酬割当て

当社は、当社の取締役(社外取締役を除く。)が株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めることを目的として、当社の取締役(社外取締役を除く。)に対し、譲渡制限付株式を交付する株式報酬制度を導入しており、2025年度は11,766株の割当てを実施いたしました。

## 連結財務ハイライト

### ◆ 売上高 ◆

**11,572** 百万円

前年同期比 3.6% 増 ↑



### ◆ 経常利益 ◆

**1,213** 百万円

前年同期比 18.1% 増 ↑



### ◆ 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 ◆

**454** 百万円

前年同期比 21.3% 減 ↓



### ◆ 1株当たり中間(当期)純利益 ◆

**38.76** 円



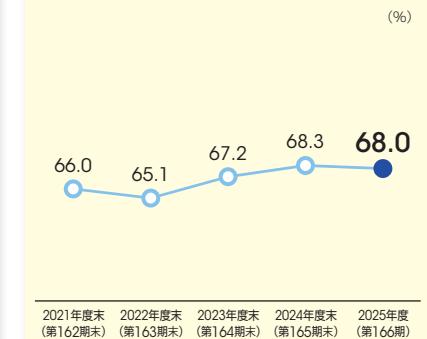
### ◆ 売上高経常利益率(中間期) ◆

**10.5** %



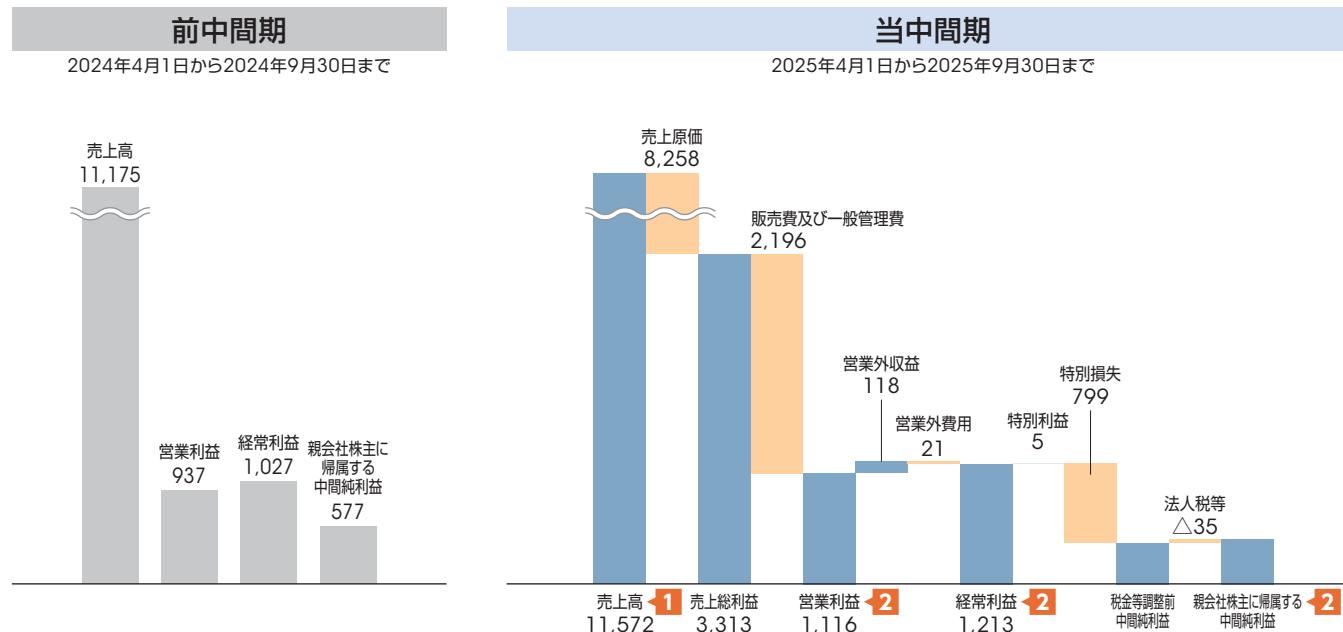
### ◆ 自己資本比率 ◆

**68.0** %



(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



## POINT

## 1 売上高の状況

品種別売上高については、アスロックは52億43百万円(前年同期比1.9%減少)、住宅用高遮音木材は9億81百万円(前年同期比6.5%減少)、住宅用軽量外壁材は28億67百万円(前年同期比22.0%増加)となり、押出成形セメント製品合計では90億92百万円(前年同期比4.0%増加)に、耐火被覆等は5億74百万円(前年同期比1.4%増加)、スレート関連は4億45百万円(前年同期比1.4%増加)となったこと等から、当中間連結会計期間の売上高は115億72百万円(前年同期比3.6%増加)となりました。

## 2 利益の状況

物価上昇による原材料・エネルギー価格の上昇や人件費・外注加工費の増加で製造原価が上昇しましたが、NNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)による生産性向上やコスト削減の取り組み及び販売価格改定の効果、販売数量の増加等により、営業利益は11億16百万円(前年同期比19.1%増加)、経常利益は12億13百万円(前年同期比18.1%増加)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、特別損失に訴訟損失7億76百万円を計上したこと等から、4億54百万円(前年同期比21.3%減少)となりました。

## 中間連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

前連結会計年度末	当中間期末	前連結会計年度末	当中間期末
2025年3月31日現在	2025年9月30日現在	2025年3月31日現在	2025年9月30日現在
資産合計 30,239	資産合計 30,986	負債純資産合計 30,239	負債純資産合計 30,986
流動資産 14,929	流動資産 15,032	流動負債 4,897	流動負債 5,728
有形固定資産 10,548	有形固定資産 10,520	固定負債 4,676	固定負債 4,186
無形固定資産 109	無形固定資産 89		
投資その他の資産 4,652	投資その他の資産 5,344		
固定資産 15,310	固定資産 15,953	株主資本 16,025	株主資本 16,020
		その他の包括利益累計額 4,640	その他の包括利益累計額 5,050
		純資産 20,665	純資産 21,070

## 6 中間連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)

当中間期			
2025年4月1日から2025年9月30日まで			
現金及び現金同等物の期首残高 6,754	営業活動によるキャッシュ・フロー 549	投資活動によるキャッシュ・フロー △571	財務活動によるキャッシュ・フロー △474
		現金及び現金同等物の中間期末残高 6,257	

## POINT

## 3 資産の状況

「受取手形、売掛金及び契約資産」が6億84百万円、「投資有価証券」が6億95百万円増加、「現金及び預金」が4億97百万円減少したこと等から、「資産合計」は前連結会計年度末と比べ7億46百万円増加となりました。

## 4 債債の状況

「未払法人税等」が3億23百万円、「訴訟損失引当金」が5億78百万円減少、流動負債の「その他」が9億89百万円増加したこと等により、「負債合計」は前連結会計年度末に比べ3億41百万円増加となりました。

## 5 純資産の状況

「その他有価証券評価差額金」が4億5百万円増加したこと等から、「純資産合計」は4億5百万円増加となりました。

## 6 連結キャッシュ・フロー計算書の状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、訴訟損失引当金の減少額5億78百万円等の資金の減少要因があった一方、その他12億12百万円や税金等調整前中間純利益4億19百万円等の資金の増加要因があったこと等により5億49百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出4億71百万円等の資金の減少要因があったこと等により5億71百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、親会社による配当金の支払額4億67百万円等の資金の減少要因があったこと等により4億74百万円の減少となりました。

この結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は前連結会計年度末に比べ4億97百万円減少し62億57百万円となりました。

